

## 2017年度 再資源化等業務の実績

公益財団法人 自動車リサイクル促進センター  
再資源化支援部

【2017年度の使用済自動車再資源化等の概要】

【期間】2017年4月1日～2018年3月31日

### < 自動車メーカー・輸入業者からの受託業務の再資源化量等の実績 >

フロン類は、前年実績12.7千台より7.0千台減の5.7千台を処理した。

エアバッグ類は、前年実績12.6千台より7.0千台減の5.6千台を処理した。

ASRIは、前年実績13.4千台より7.6千台減の5.8千台を処理した。重量にして1.5千トンであった。

#### ◆ 再資源化等契約状況(2018年3月31日時点)

コード	契約者の氏名又は名称	契約締結年月日
013	株式会社 光岡自動車	2004年10月1日
015	トヨタ車体 株式会社	2013年11月1日
016	GLM 株式会社	2015年 1月1日
602	株式会社 オートレックス	2004年10月1日
603	株式会社 オートリーゼン	2004年10月1日
604	株式会社 LUFTホールディングス	2004年10月1日
611	ゼネラルモーターズ・ジャパン 株式会社	2004年10月1日
612	現代自動車ジャパン 株式会社	2004年10月1日
614	チェッカーモーターズ 株式会社	2004年10月1日
615	エルシーアイ 株式会社	2004年10月1日
618	ニコル・レーシング・ジャパン 合同会社	2004年10月1日
621	ポルシェジャパン 株式会社	2004年10月1日
622	ルノー・ジャポン 株式会社	2004年10月1日
623	ロールス・ロイス モーターカーズ リミテッド	2004年10月1日
631	フェラーリジャパン 株式会社	2008年 7月1日
632	ワイ・エンジニアリング 株式会社	2008年12月1日
633	株式会社 RTC	2009年 6月1日
635	ブレイントレーディング 株式会社	2010年 6月1日
636	ピーシーアイ 株式会社	2010年10月1日
637	テスラモーターズジャパン 合同会社	2011年 2月1日
638	マセラティジャパン 株式会社	2011年 1月1日
639	株式会社 キャロッセ	2011年12月1日
640	株式会社 アルテガジャパン	2012年 1月1日
641	マクラレン オートモーティブ アジア プライベート リミテッド	2012年 5月1日
642	スカニアジャパン 株式会社	2012年 8月1日
643	エスシーアイ 株式会社	2014年11月1日
644	アストンマーティンジャパン 合同会社	2015年 4月1日
646	ブガッティジャパン 株式会社	2017年10月1日
700	株式会社 加藤製作所	2004年12月1日
701	株式会社 小松製作所	2004年12月1日
702	東邦車輛 株式会社	2004年12月1日
703	コベルコ建機 株式会社	2005年 3月1日

◆ 自動車メーカー・輸入業者からの受託業務の再資源化量

品目	項目		2017年度	(参考)2016年度	
フロン類	引取重量	CFC引取重量	7 kg	26 kg	
		HFC引取重量	1,386 kg	3,299 kg	
		合計引取重量	1,393 kg	3,325 kg	
	引取台数	CFCの引取台数	93 台	163 台	
		HFCの引取台数	5,576 台	12,565 台	
		合計引取台数	5,669 台	12,728 台	
エアバッグ類	引取個数	回収個数 ※1	4,380 個	9,834 個	
		作動個数 ※2	29,368 個	63,452 個	
		合計個数	33,748 個	73,286 個	
	引取台数	回収台数	889 台	2,179 台	
		作動台数	4,596 台	10,141 台	
		一部回収／一部作動台数	67 台	273 台	
		合計台数	5,552 台	12,593 台	
	引取重量	引き取ったガス発生器の重量	2,811 kg	6,258 kg	
	ASR	引取台数	引き取った使用済自動車台数	5,824 台	13,387 台
		引取重量	引き取ったASRの重量	1,472 t	3,312 t

< 並行輸入車等の再資源化量等の実績 >

フロン類は、前年実績4.1千台より1.6千台増の5.7千台を処理した。

エアバッグ類は、前年実績3.9千台より1.4千台増の5.3千台を処理した。

ASRは、前年度7.7千台より0.9千台増の8.6千台を処理した。重量にして2.2千トンであった。

これら三品目を処理するために要した費用は、前年実績1億1,701万円より523万円増の1億2,224万円となった。

資金管理法人から払い渡しを受けた預託金総額は、1億5,413万円であったことから、3,189万円の黒字となった。

◆ 並行輸入車等の再資源化量

品目	項目		2017年度	(参考)2016年度	
フロン類	引取重量	CFC引取重量	41 kg	35 kg	
		HFC引取重量	1,346 kg	1,014 kg	
		合計引取重量	1,387 kg	1,049 kg	
	引取台数	CFCの引取台数	385 台	282 台	
		HFCの引取台数	5,296 台	3,836 台	
		合計引取台数	5,681 台	4,118 台	
エアバッグ類	引取個数	回収個数 ※1	3,105 個	1,887 個	
		作動個数 ※2	24,297 個	18,824 個	
		合計個数	27,402 個	20,711 個	
	引取台数	回収台数	761 台	484 台	
		作動台数	4,381 台	3,301 台	
		一部回収／一部作動台数	118 台	110 台	
		合計台数	5,260 台	3,895 台	
	引取重量	引き取ったガス発生器の重量	1,973 kg	1,225 kg	
	ASR	引取台数	引き取った使用済自動車台数	8,620 台	7,676 台
		引取重量	引き取ったASRの重量	2,232 t	2,028 t

◆ 収支

品目	項目	2017年度	(参考)2016年度
フロン類	払い渡しを受けた再資源化等預託金の総額	13,170,178 円	9,419,545 円
	破壊に要した費用の総額	9,755,155 円	7,264,306 円
	収支	3,415,023 円	2,155,239 円
エアバッグ類	払い渡しを受けた再資源化等預託金の総額	21,313,729 円	15,752,149 円
	再資源化等に要した費用の総額	12,775,806 円	9,225,148 円
	収支	8,537,923 円	6,527,001 円
ASR	払い渡しを受けた再資源化等預託金の総額	119,642,842 円	111,345,527 円
	再資源化等に要した費用の総額	99,708,635 円	100,520,978 円
	収支	19,934,207 円	10,824,549 円
三品目合計	払い渡しを受けた再資源化等預託金の総額	154,126,749 円	136,517,221 円
	再資源化等に要した費用の総額	122,239,596 円	117,010,432 円
	収支	31,887,153 円	19,506,789 円

< 再資源化の実施状況 >

エアバッグ類の再資源化は、引き取ったガス発生器重量が4.8kgであり、再資源化率は94.0%であった。前年度の再資源化率93.6%に対して、0.4ポイント向上し、基準値である85%を超える結果となった。

ASRの再資源化は、引き取ったASR重量が3.7千トンであり、再資源化率は98.4%であった。前年度の再資源化率98.2%に対して、0.2ポイント向上し、基準値である70%を超える結果となった。

◆ 再資源化率

品目	項目	2017年度	(参考)2016年度
エアバッグ類	引き取ったガス発生器の重量 ①	4,784 kg	7,483 kg
	引き取ったガス発生器で再利用できる状態にした重量 ②	4,497 kg	7,003 kg
	エアバッグ類再資源化率 ※3	94.0 %	93.6 %
ASR	引き取ったASRの重量 ③	3,704 t	5,341 t
	ASRリサイクル施設へ投入したASR重量 ④	3,704 t	5,341 t
	ASRリサイクル施設で生じた当該ASR由来の排出残さ重量 ⑤	59 t	96 t
	ASR再資源化率 ※4	98.4 %	98.2 %

※1 車体からエアバッグを取り外して、インフレーターを回収し、再資源化施設にてリサイクルする方法

※2 車体に取り付けたままエアバッグを展開しリサイクルする方法

※3 エアバッグ類再資源化率 = 引取ガス発生器再利用重量(②) / 引取ガス発生器重量(①)

※4 ASR再資源化率 =  $\frac{\text{リサイクル施設投入ASR重量(④)} - \text{排出残さ重量(⑤)}}{\text{引取ASR重量(③)}}$

以上